

第7章 青少年の意識

第7章 青少年の意識

1 青少年の意識に関する調査について

県の施策を推進し、県民の自主的活動の有効な展開を図るためには、青少年問題に関する県民の理解と市町村等関係機関の協力が必要である。

このため、県では、本県の青少年の意識の現状や将来展望・社会との関わりなどについて、青森県青少年健全育成条例に基づく青少年行政基礎調査事業の一つとして「青少年の意識に関する調査」を隔年で実施し、その結果を県民に明らかにするとともに、市町村等関係機関に情報提供している。

(1) 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握して、青少年に関する施策の総合的な推進のための基礎資料を得るとともに、得られた結果を広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

(2) 調査の方法

質問紙による無記名集団調査

(3) 調査の対象

県内の小学校6年生	444人(17校)
県内の中学校2年生	402人(15校)
県内の高等学校2年生	420人(12校)
合計	1,266人(44校)

(4) 調査の実施期間

令和2年8月から令和2年9月まで

(5) 調査項目

- ア 地域のこと
- イ 学校のこと
- ウ 家族・家庭のこと
- エ 自分のこと
- オ メディア・コミュニケーションのこと
- カ 読書のこと
- キ 世の中のこと
- ク 就労に関する意識
- ケ 社会の価値観の変化に対する意識
- コ 新型コロナウイルス感染症のこと

(6) 調査実施主体

青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課

(7) 調査の監修

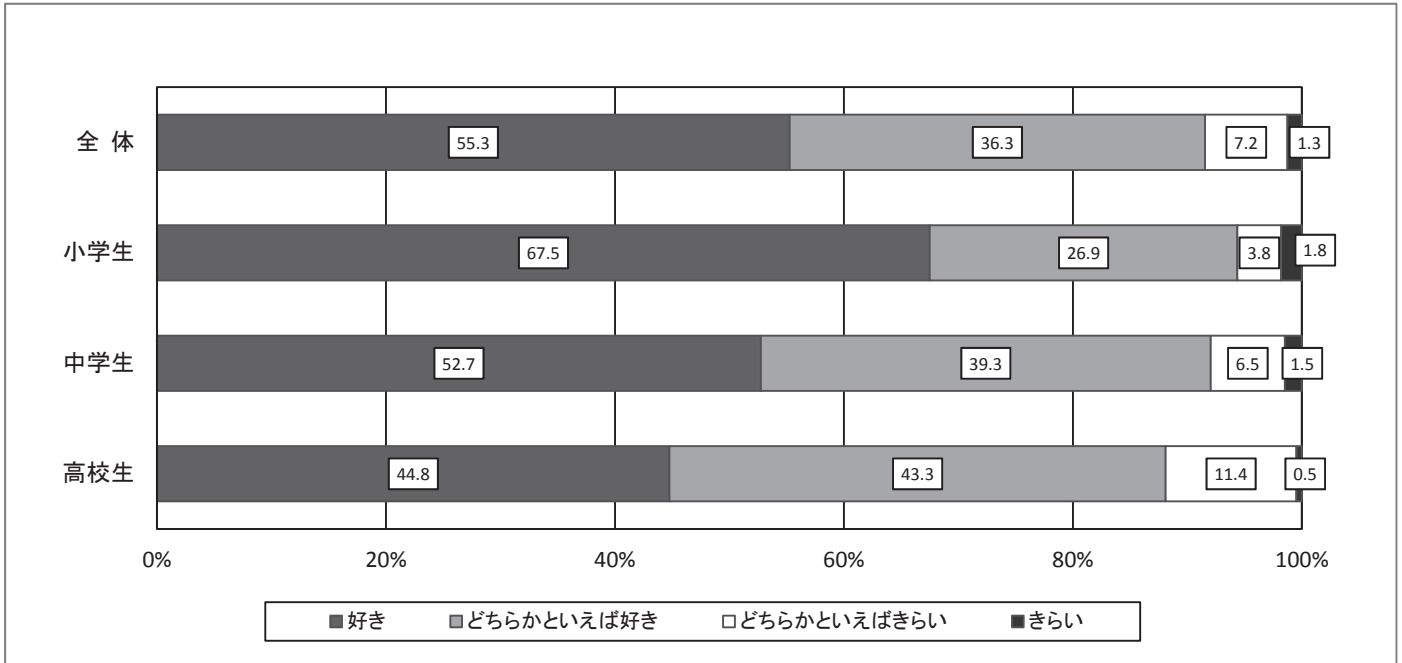
弘前大学教育学部 教授 田名場 忍 氏

2 結果概要（単純集計）

(1) 地域のこと

自分が住んでいる地域が好きかどうか尋ねたところ、全体では、91.6%が「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。

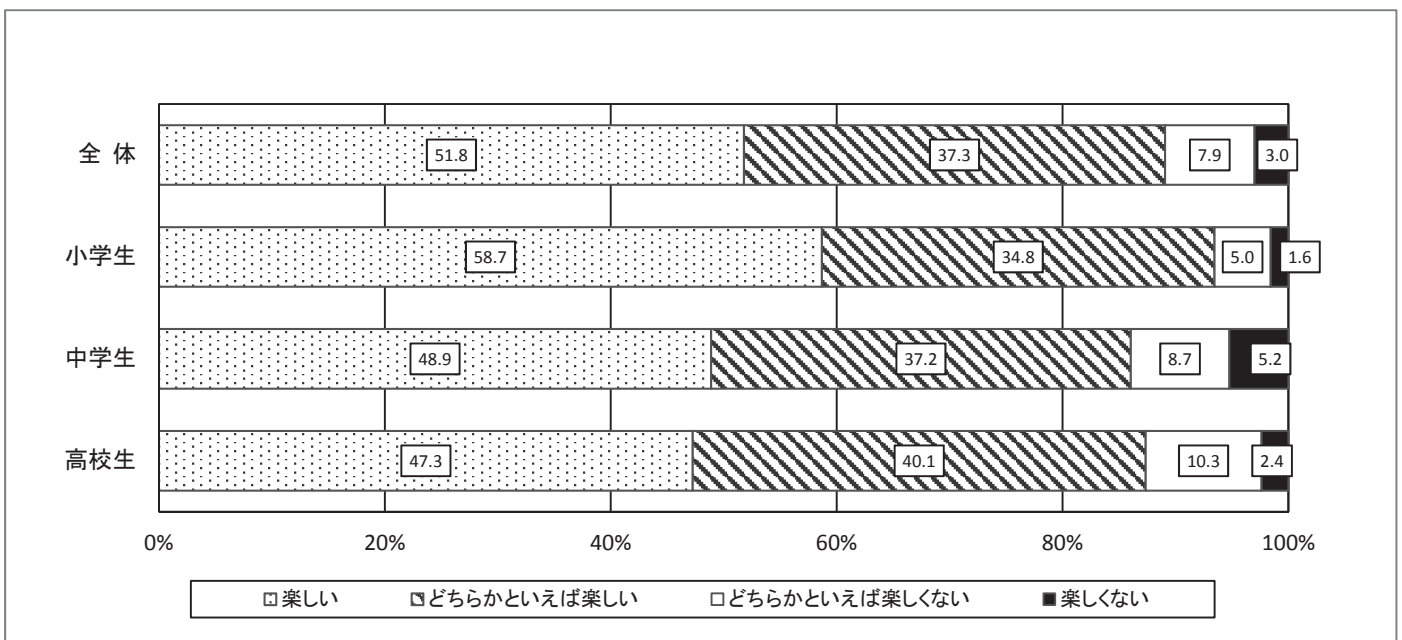
第1-7-1表 住んでいる地域への評価（N=1,265）



(2) 学校のこと

学校生活が楽しいかどうか尋ねたところ、全体では、89.1%が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答している。

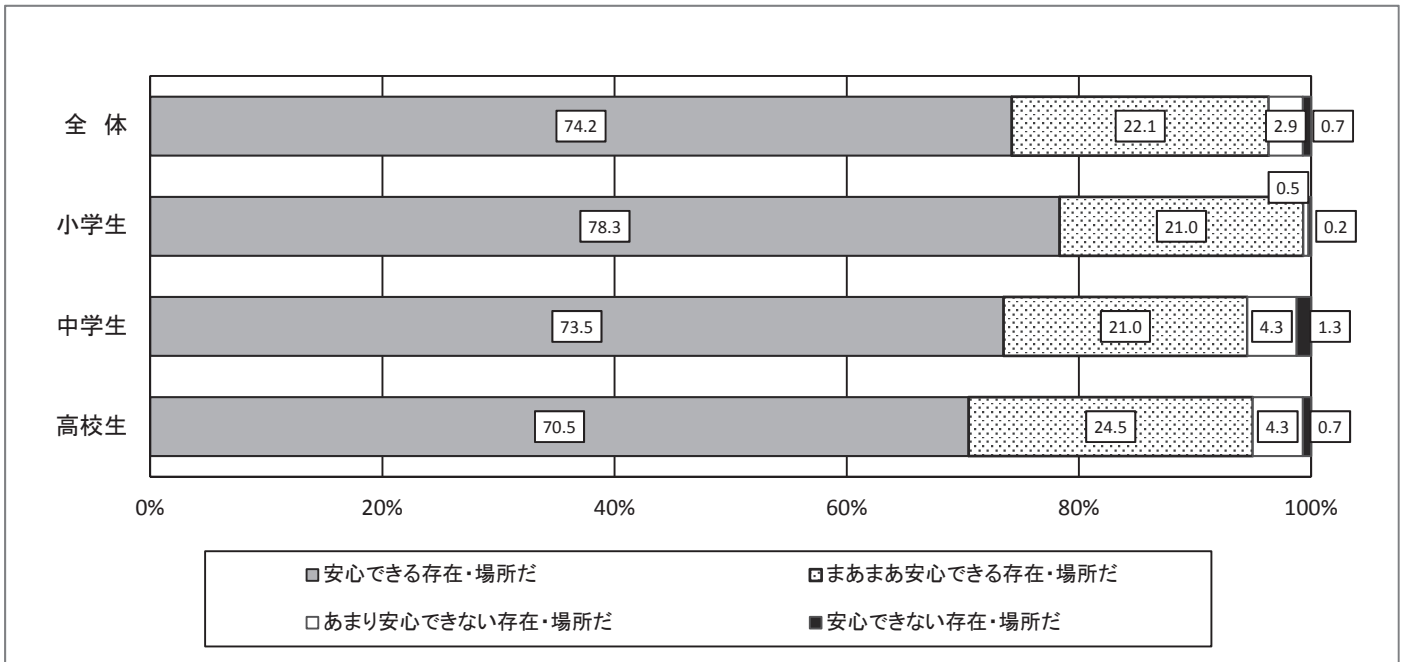
第1-7-2表 学校生活への満足度（N=1,263）



(3) 家族・家庭のこと

家族・家庭が安心できる存在・場所かどうか尋ねたところ、全体では、96.3%が「安心できる存在・場所だ」「まあまあ安心できる存在・場所だ」と回答している。

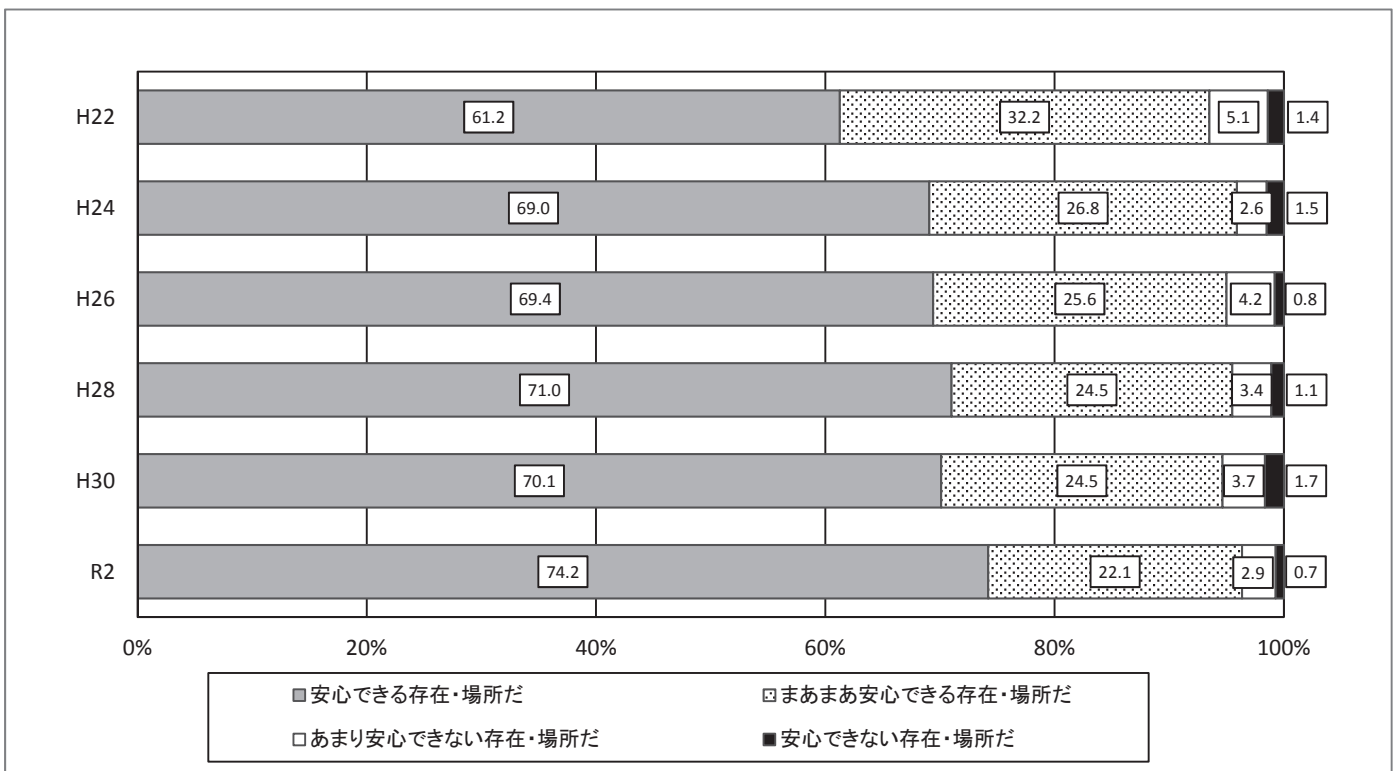
第1-7-3表 家族・家庭への評価 (N=1,260)



(経年変化)

「安心できる存在・場所だ」「まあまあ安心できる存在・場所だ」について、過去の調査と比較すると、やや増加している。

第1-7-4表 家族・家庭への評価 (経年変化)

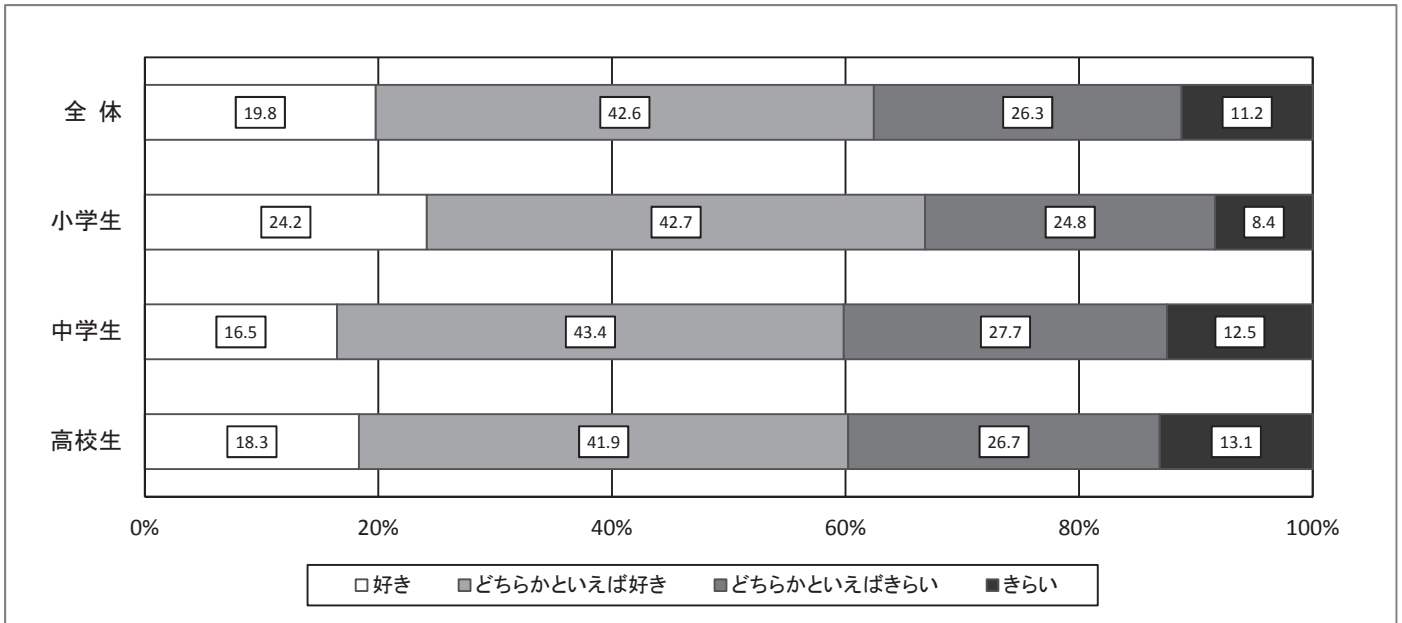


(4) 自分のこと

ア 自己への評価

自分のことが好きかどうか尋ねたところ、全体では、62.4%が自分のことを「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。

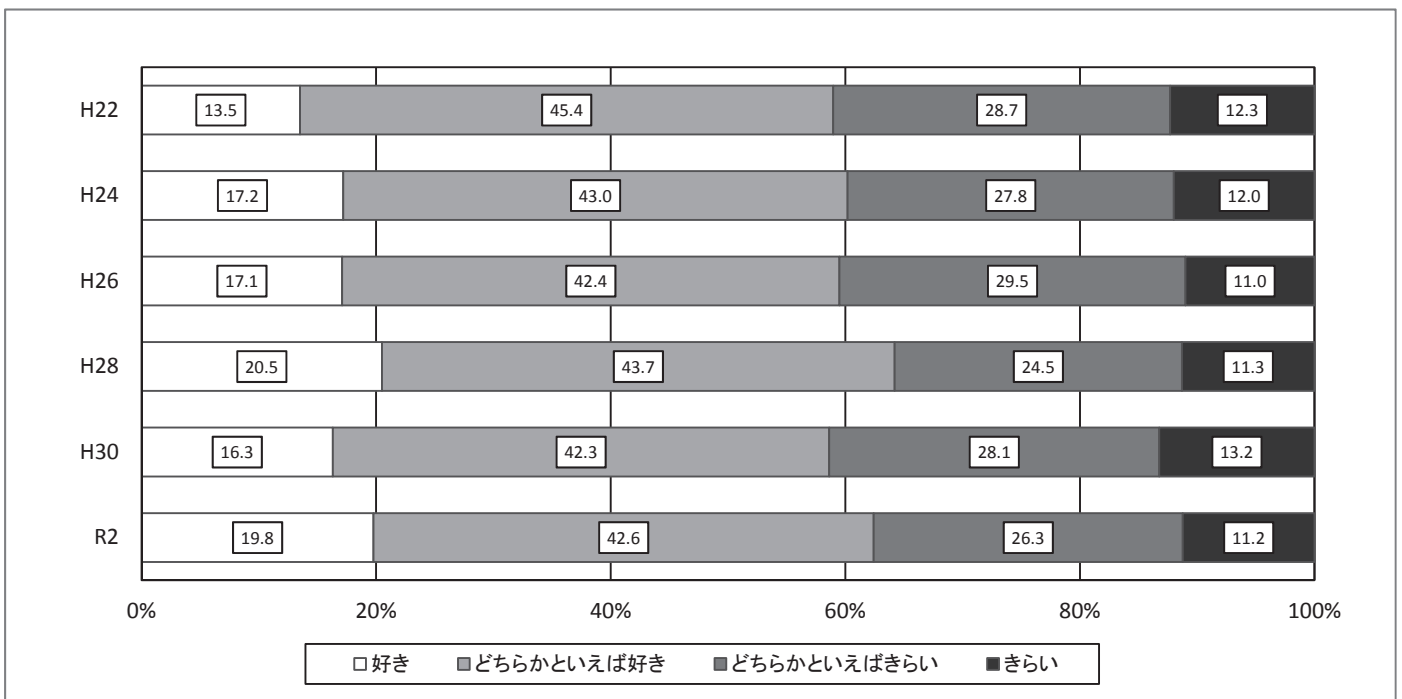
第1-7-5表 自己への評価 (N=1,264)



(経年変化)

「好き」「どちらかといえば好き」については、平成28年度以外は約60%で推移しているが、令和2年度は、平成30年度から3.8ポイント増加して62.4%となっている。

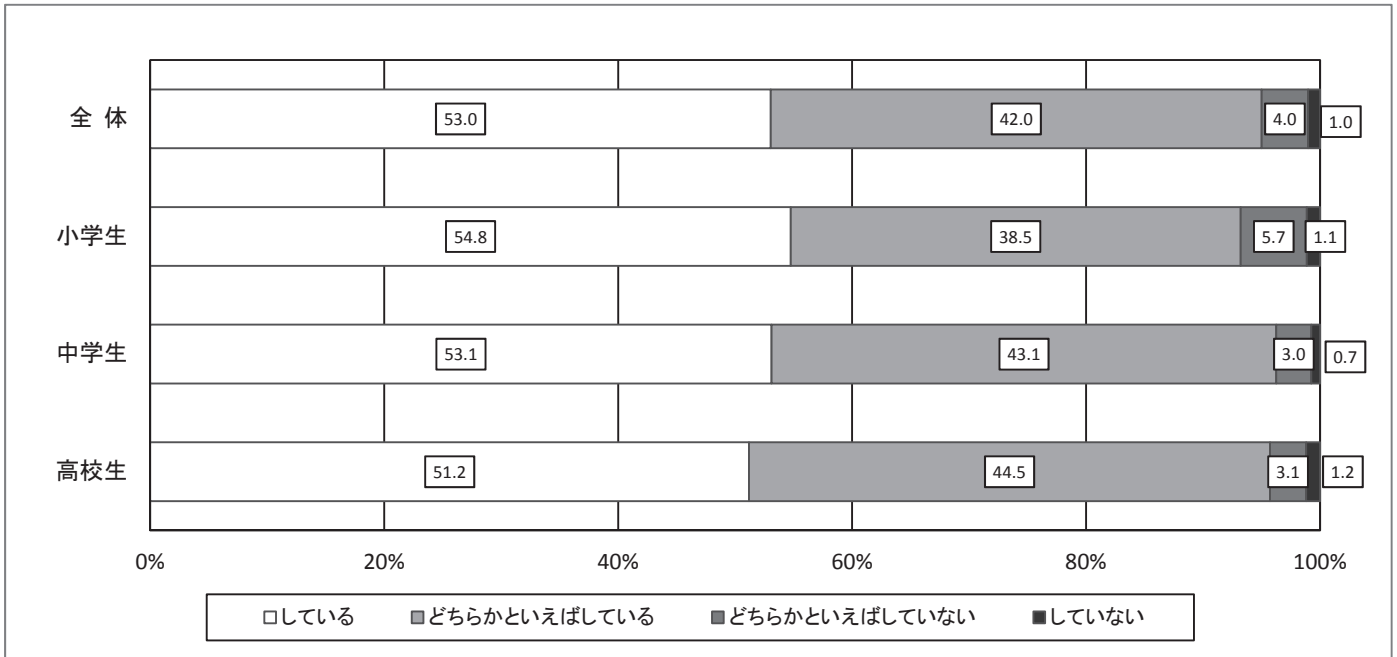
第1-7-6表 自己への評価 (経年変化)



イ 他人への思いやり

他人に対して思いやりをもって接するように心がけているかどうかを尋ねたところ、全体では、95.0%が「している」「どちらかといえばしている」と回答している。

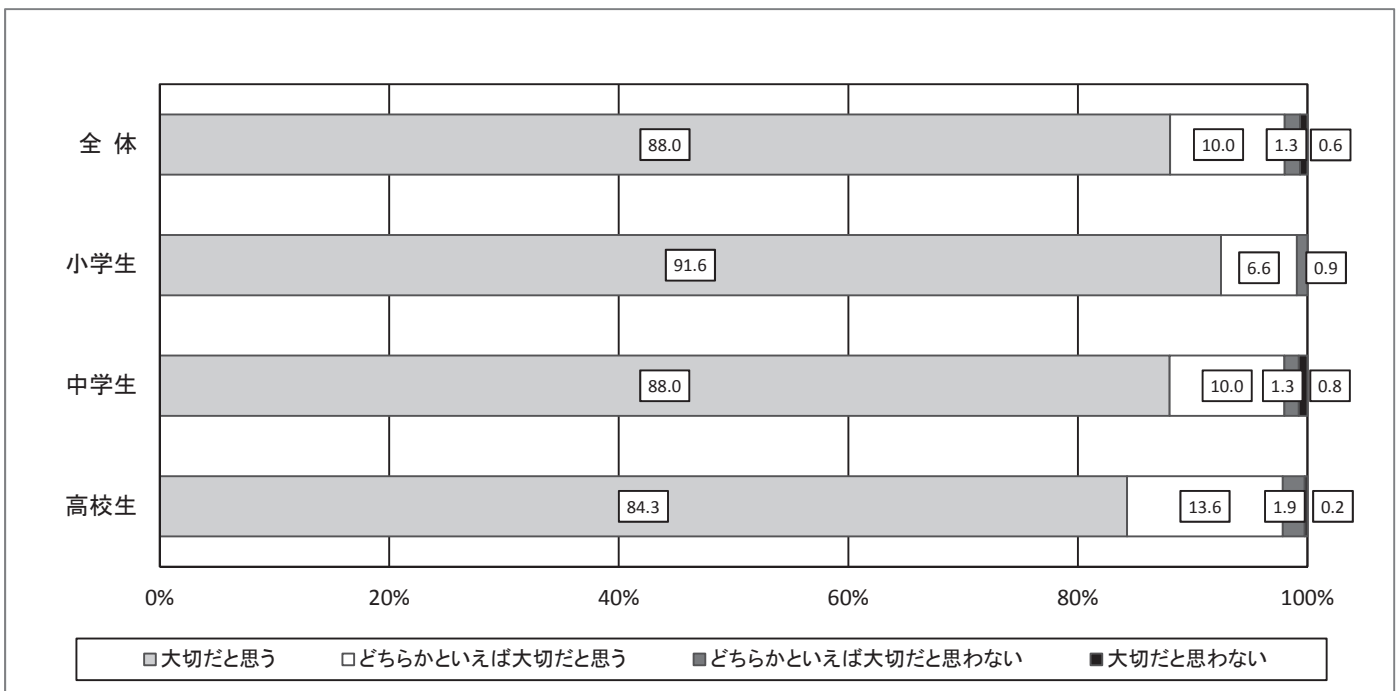
第1-7-7表 他人への思いやり (N=1,263)



ウ 命について

自分や他人の命をどう思うかについて尋ねたところ、全体では、98.0%が「大切だと思う」「どちらかといえば大切だと思う」と回答している。

第1-7-8表 命について (N=1,262)



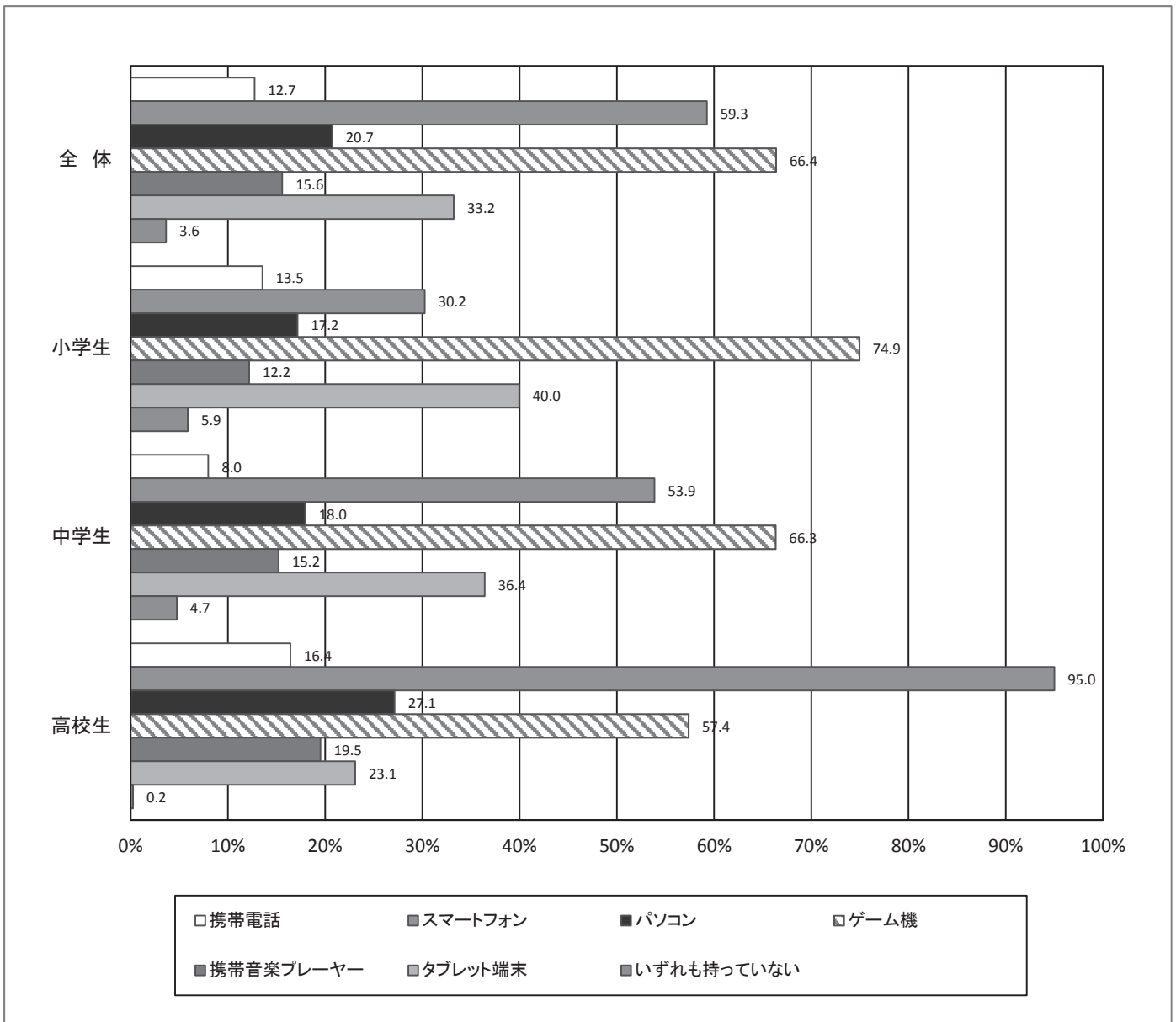
(5) メディア・コミュニケーションのこと

ア インターネットにつながる機器の所有状況

インターネットにつながる機器（携帯電話・スマートフォン・パソコン・ゲーム機・携帯音楽プレーヤー・タブレット端末）を自分専用で持っている又は自分が自由に使えるものがあると回答している割合は、小学生では94.1%、中学生では95.3%、高校生では99.8%となっている。

現在、自分専用で持っている又は自分が自由に使えるものでは、「ゲーム機」が66.4%で最も高く、以下、「スマートフォン」(59.3%)、「タブレット端末」(33.2%)となっている。

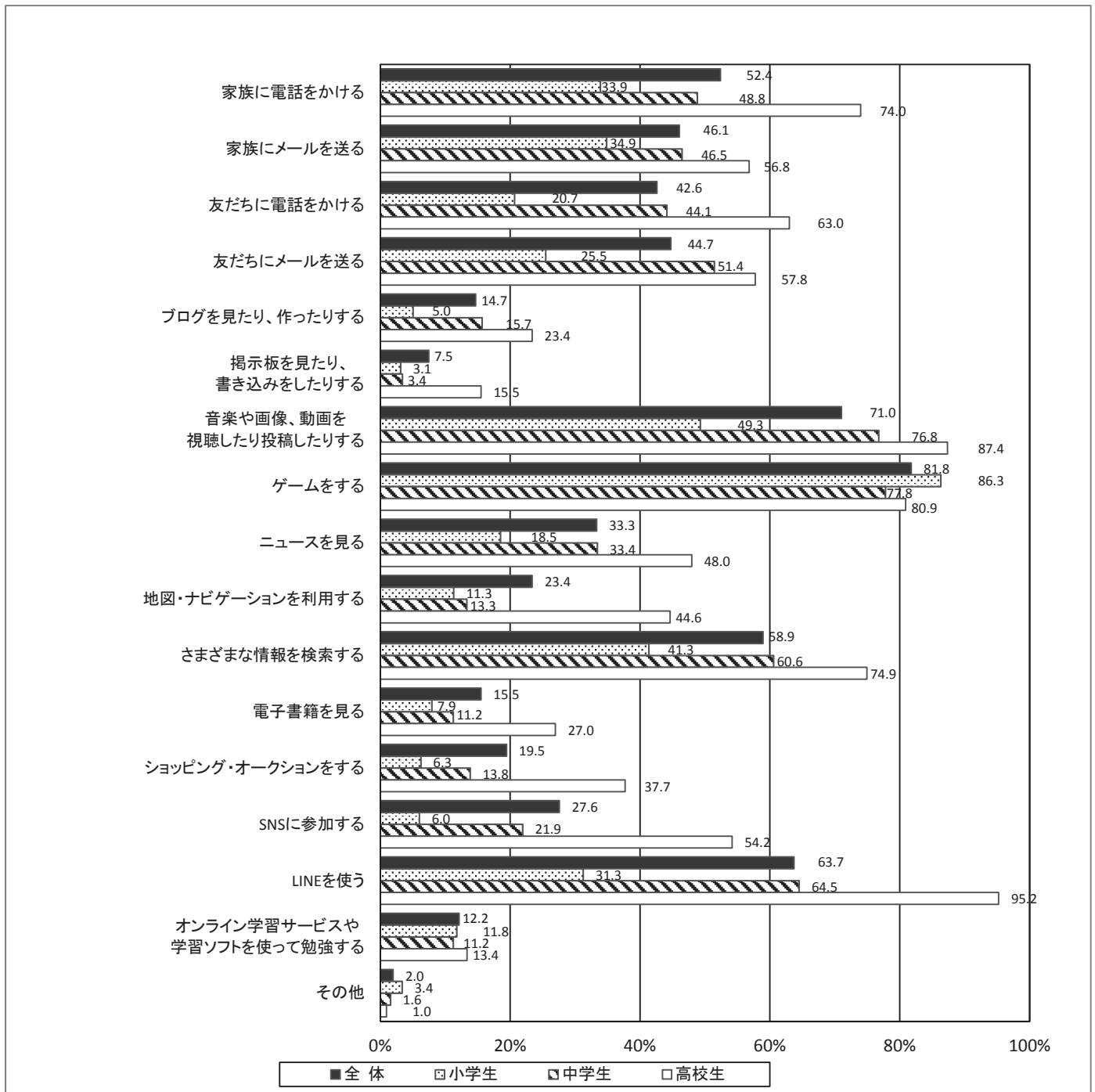
第1-7-9表 インターネットにつながる機器の所有状況（N=1,264）



イ インターネットにつながる機器の使用目的

インターネットにつながる機器の使用目的を尋ねたところ、「ゲームをする」が81.8%で最も高く、以下、「音楽や画像、動画を視聴したり投稿したりする」が71.0%、「LINEを使う」が63.7%などとなっている。

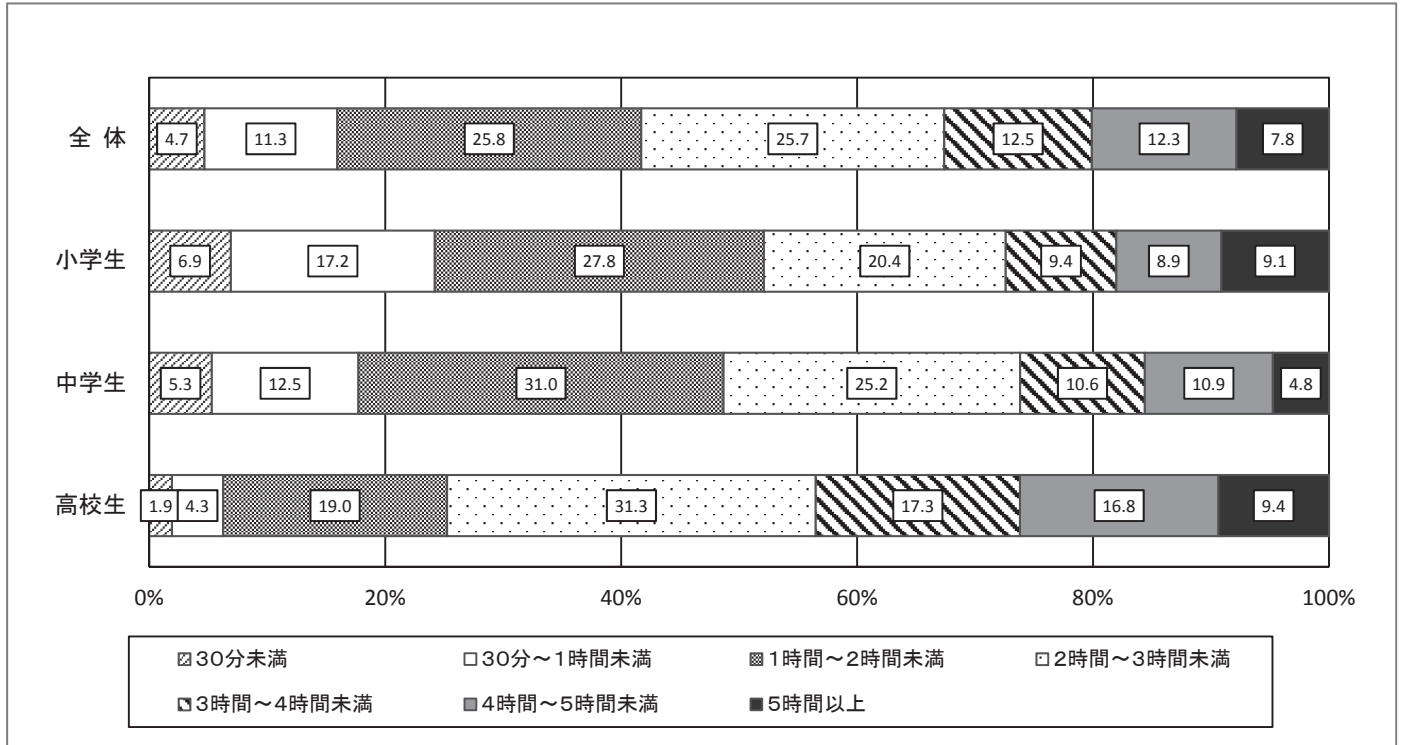
第1-7-10表 インターネットにつながる機器の使用目的（N=1,218）



ウ インターネットにつながる機器の使用時間

インターネットにつながる機器の1日の使用時間を尋ねたところ、小学生の75.9%が1時間以上、中学生の51.2%が2時間以上、高校生の43.5%が3時間以上となっている。また、全体の7.8%が5時間以上使用していると回答している。

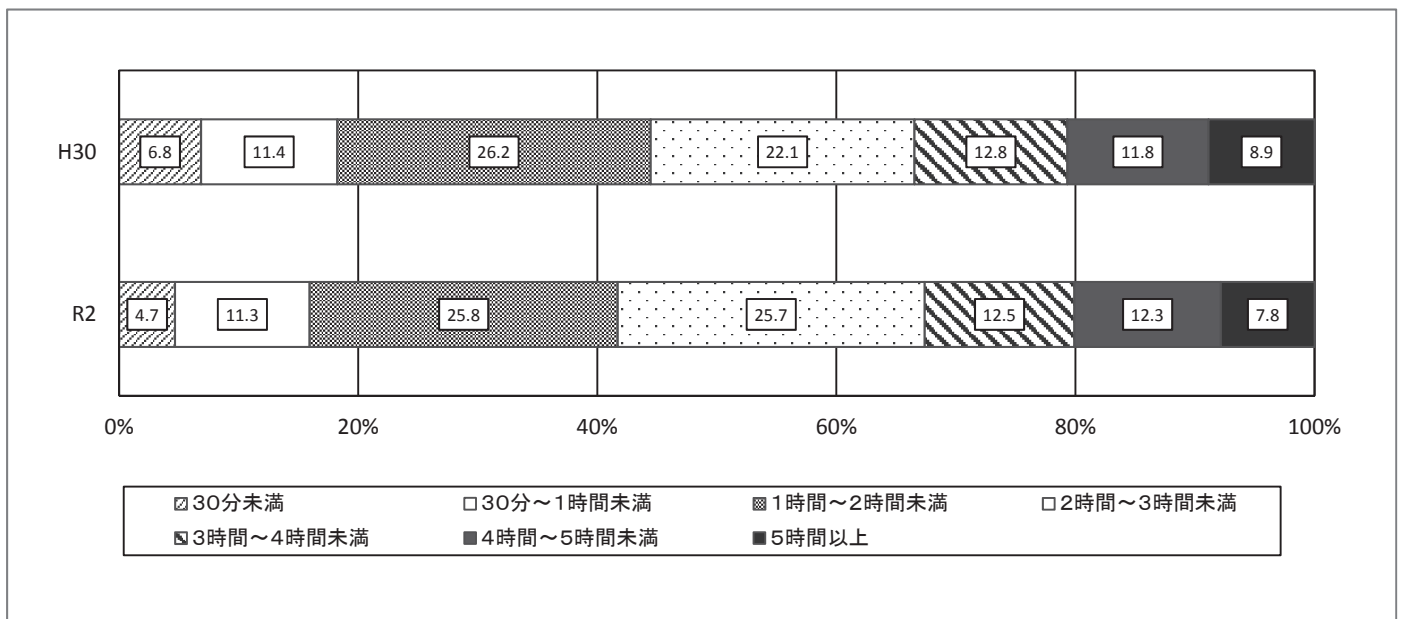
第1-7-11表 インターネットにつながる機器の使用時間（N=1,199）



(経年変化)

平成30年度と比較すると、「30分未満」が2.1ポイント減少し、「2時間～3時間未満」が3.6ポイント増加している。

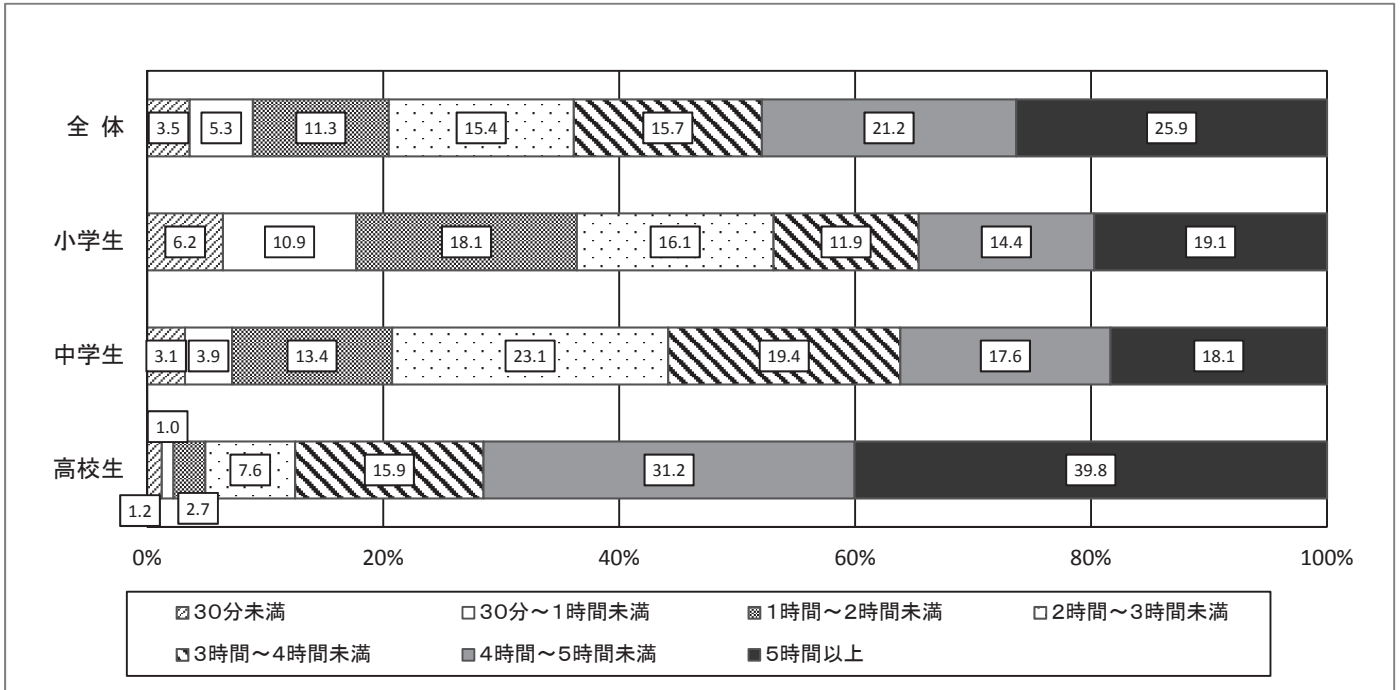
第1-7-12表 インターネットにつながる機器の使用時間（経年変化）



エ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための学校休業中における機器の使用時間

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため学校が休業期間中、インターネットにつながる機器の1日の使用時間を尋ねたところ、小学生の82.9%が1時間以上、中学生の79.6%が2時間以上、高校生の87.5%が3時間以上となっている。また、全体の25.9%が5時間以上使用していると回答している。

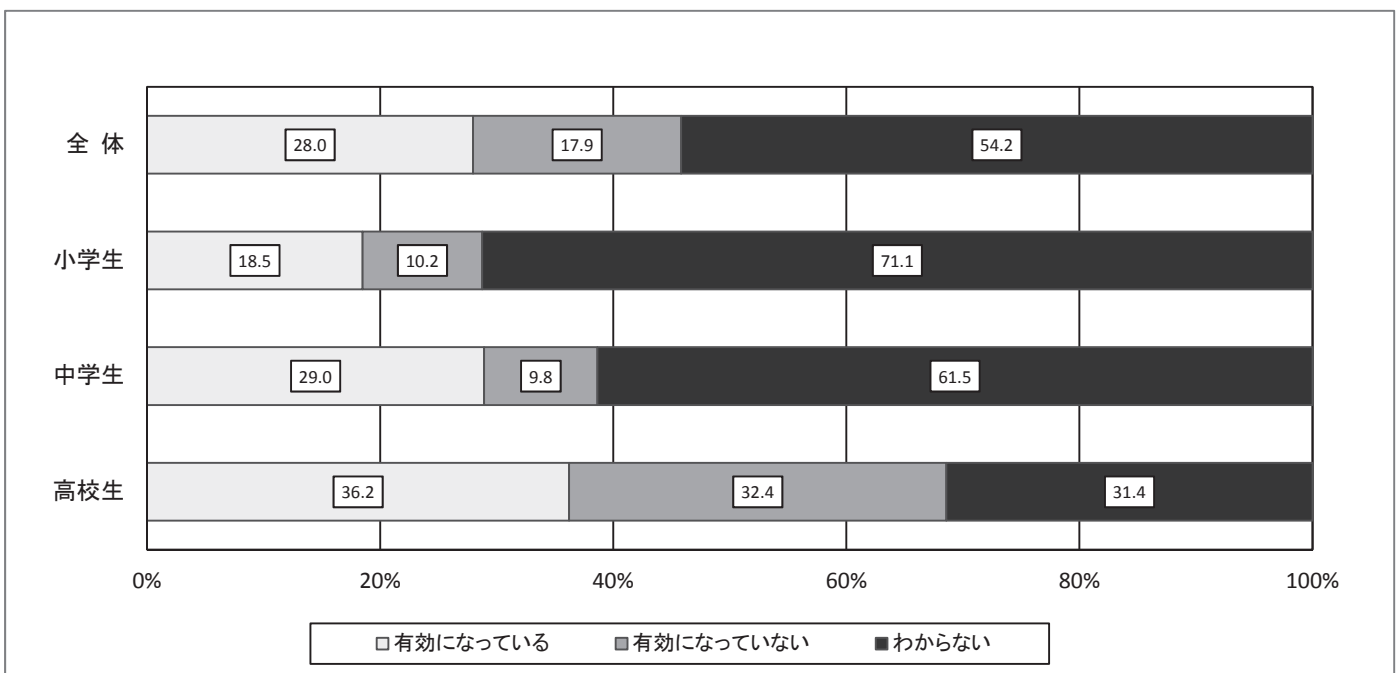
第1-7-13表 学校休業中における機器の使用時間 (N=1,194)



オ フィルタリング機能の利用状況

インターネットにつながる機器のフィルタリング機能について、全体では、「有効になっている」が28.0%、「有効になっていない」が17.9%、「わからない」が54.2%となっている。

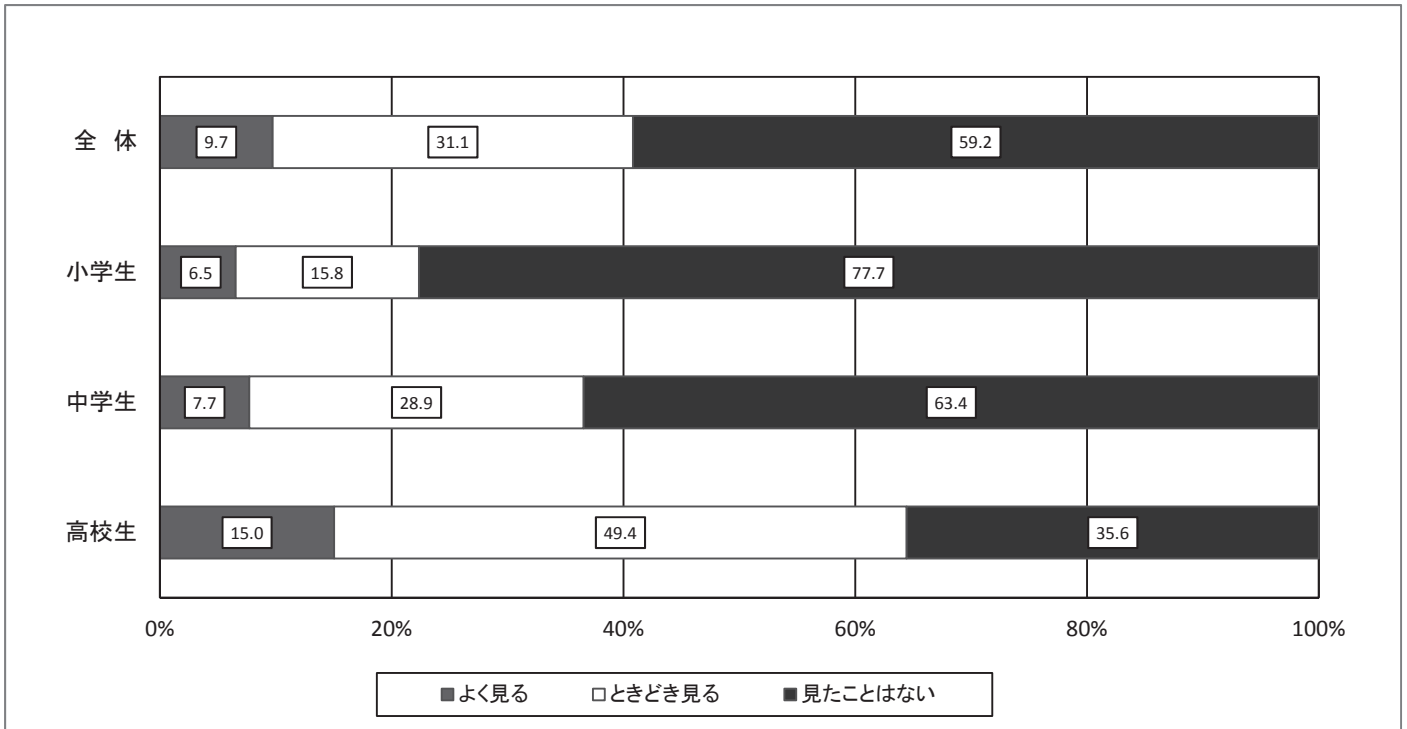
第1-7-14表 フィルタリング機能の利用状況 (N=1,187)



カ 悪口やいじめにつながる書き込みへの認知状況

インターネットにつながる機器で悪口やいじめにつながる書き込みを見たことがあるかどうか尋ねたところ、全体では、40.8%が「よく見る」「ときどき見る」と回答している。

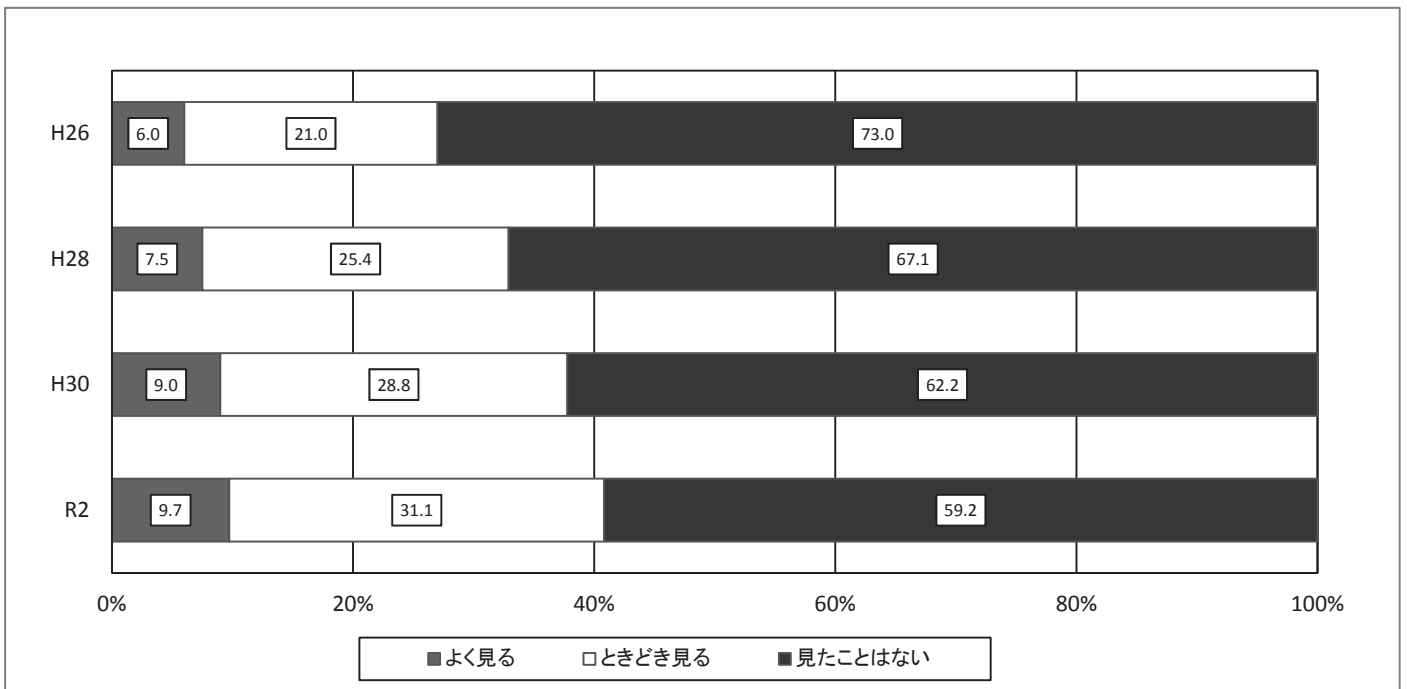
第1-7-15表 悪口やいじめにつながる書き込みへの認知状況（N=1,264）



(経年変化)

「よく見る」「ときどき見る」について、過去の調査と比較すると増加傾向にあり、令和2年度は平成30年度と比較すると3.0ポイント増加している。

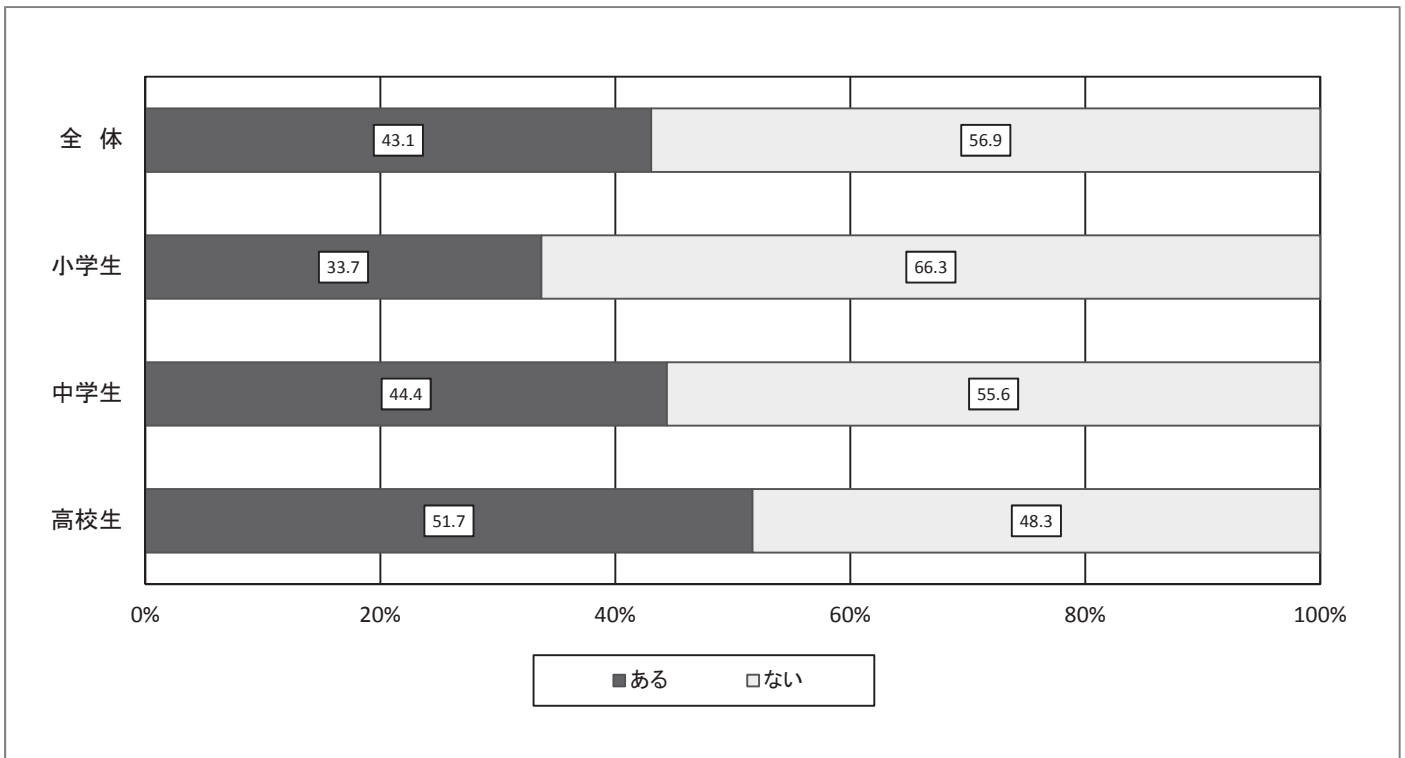
第1-7-16表 悪口やいじめにつながる書き込みへの認知状況（経年変化）



キ インターネットで知り合った人とのメールなどのやりとり

インターネットで知り合った人と電話やメールなどのやりとりをしたことがあるか尋ねたところ、全体では43.1%が「ある」と回答している。また、高校生では51.7%が「ある」と回答している。

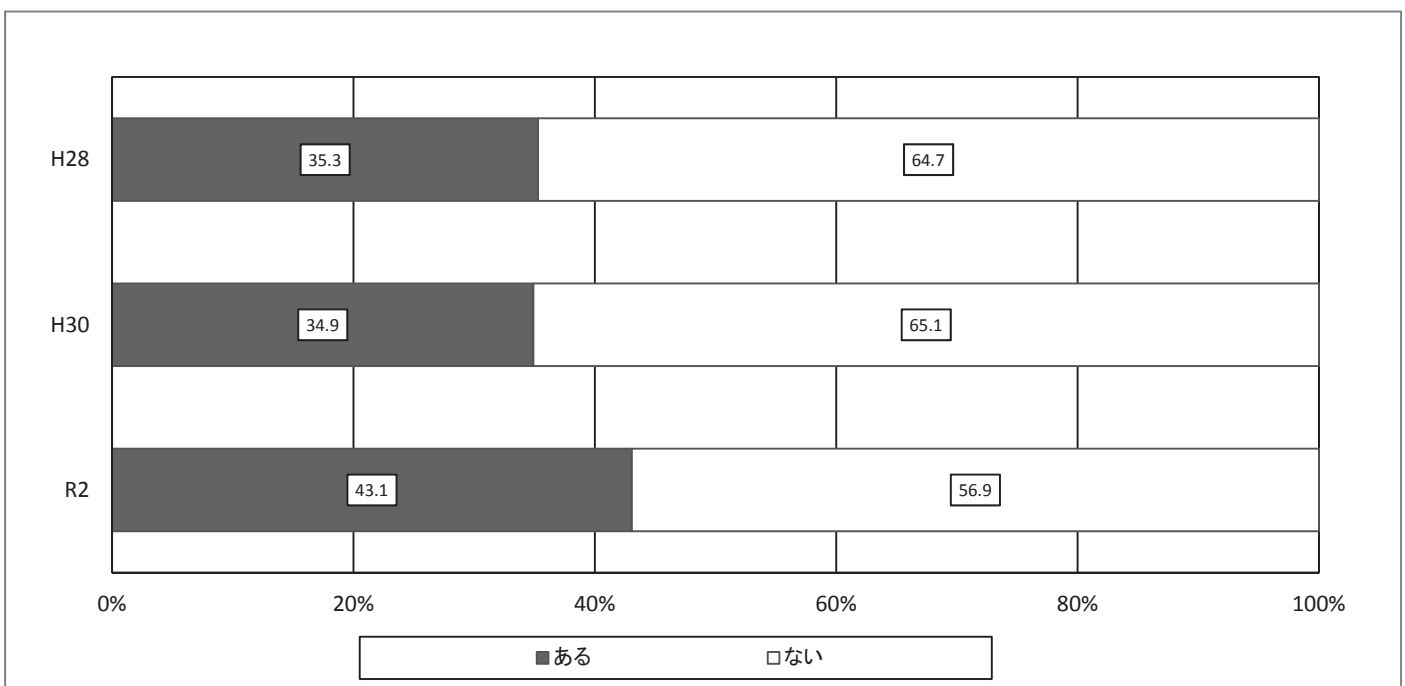
第1-7-17表 インターネットで知り合った人とのメール等のやりとり (N=1,261)



(経年変化)

「ある」については、平成30年度と比較すると、8.2ポイント増加している。

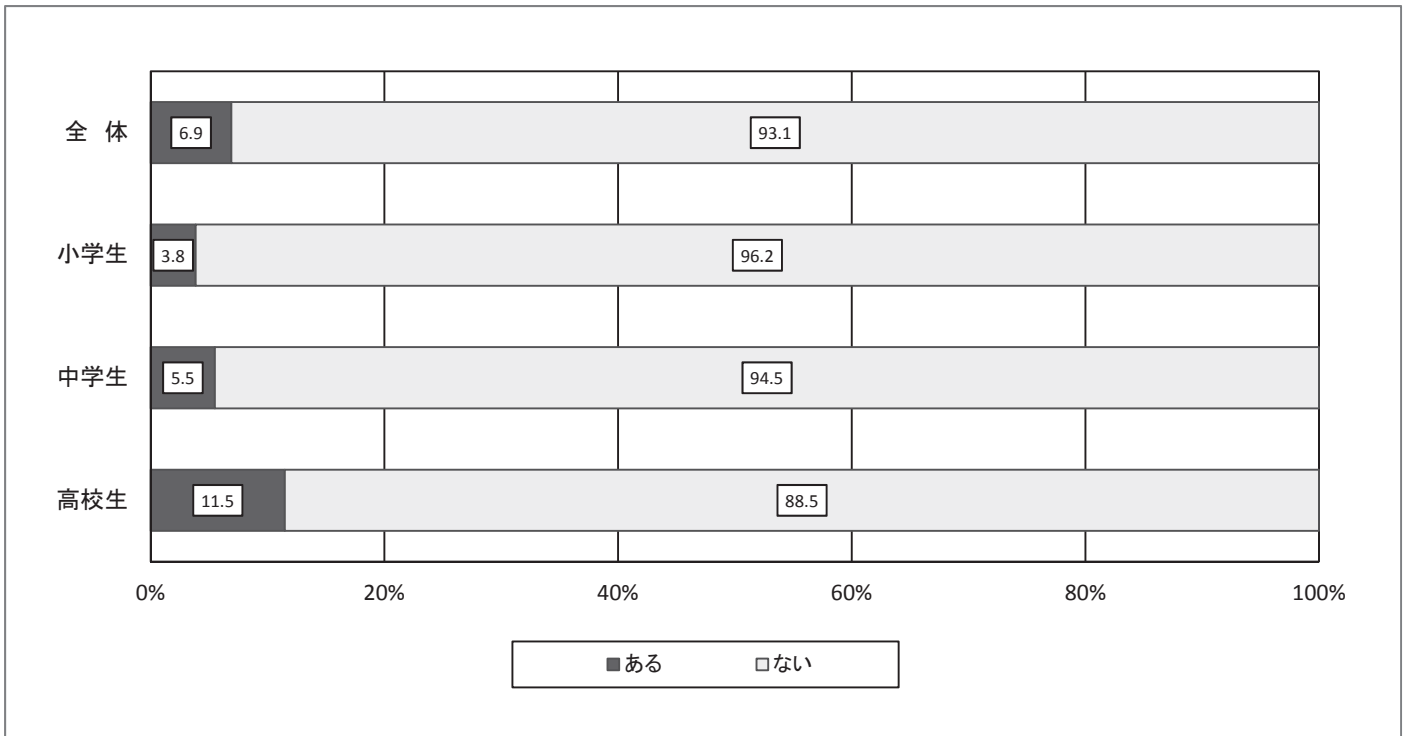
第1-7-18表 インターネットで知り合った人とのメール等のやりとり (経年変化)



ク インターネットで知り合った人と実際に会う

インターネットで知り合った人と実際に会ったことがあるか尋ねたところ、全体では6.9%が「ある」と回答している。また、高校生では11.5%が「ある」と回答している。

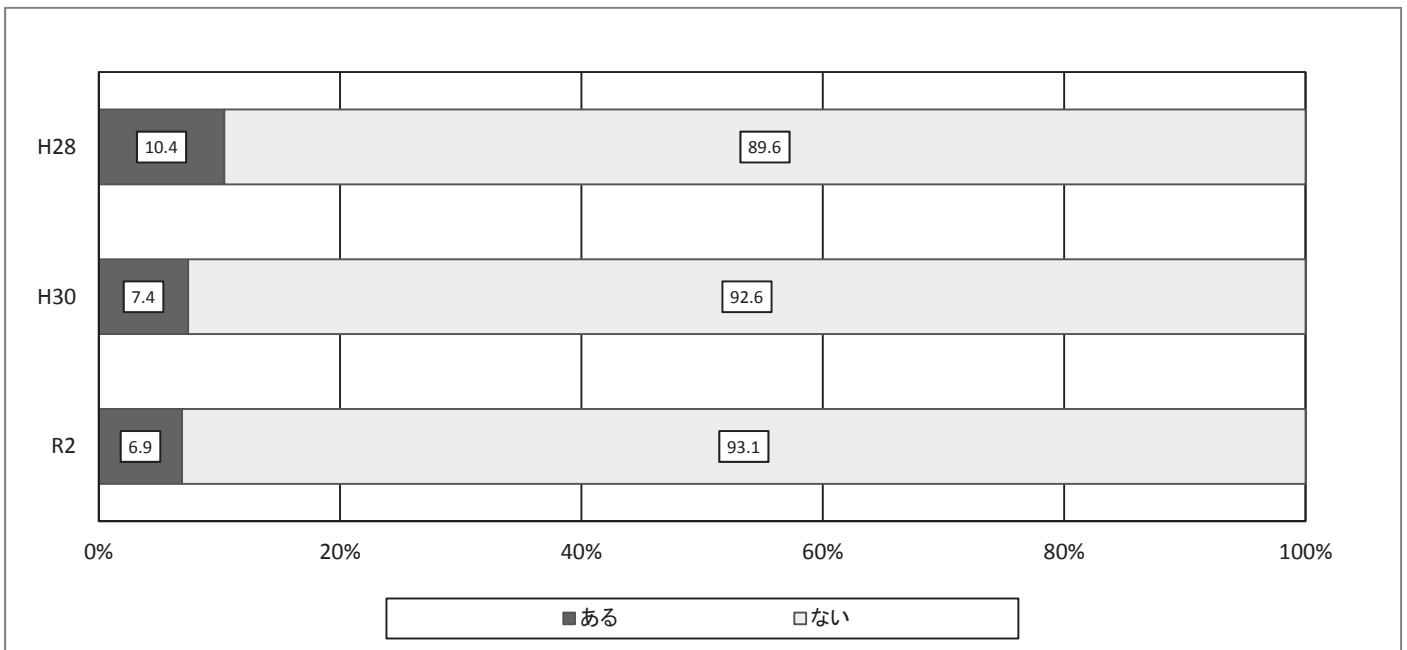
第1-7-19表 インターネットで知り合った人と実際に会う（N=1,260）



(経年変化)

過去の調査と比較すると、「ある」は減少傾向にある。

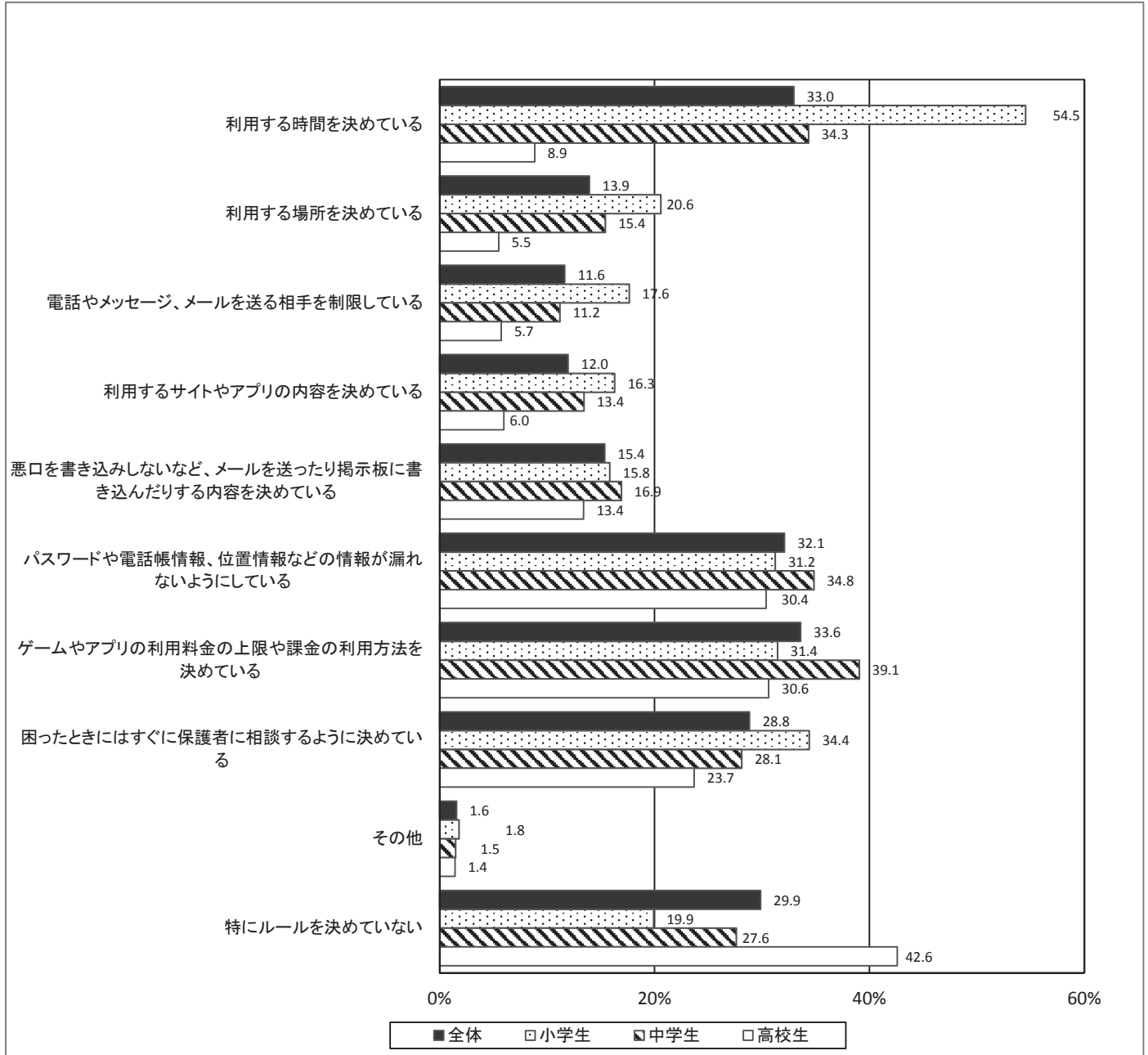
第1-7-20表 インターネットで知り合った人と実際に会う（経年変化）



ケ 家庭での使い方ルール

インターネットにつながる機器の家庭における使い方のルールを尋ねたところ、全体では29.9%、小学生では19.9%、中学生では27.6%、高校生では42.6%が「特にルールを決めていない」と回答している。

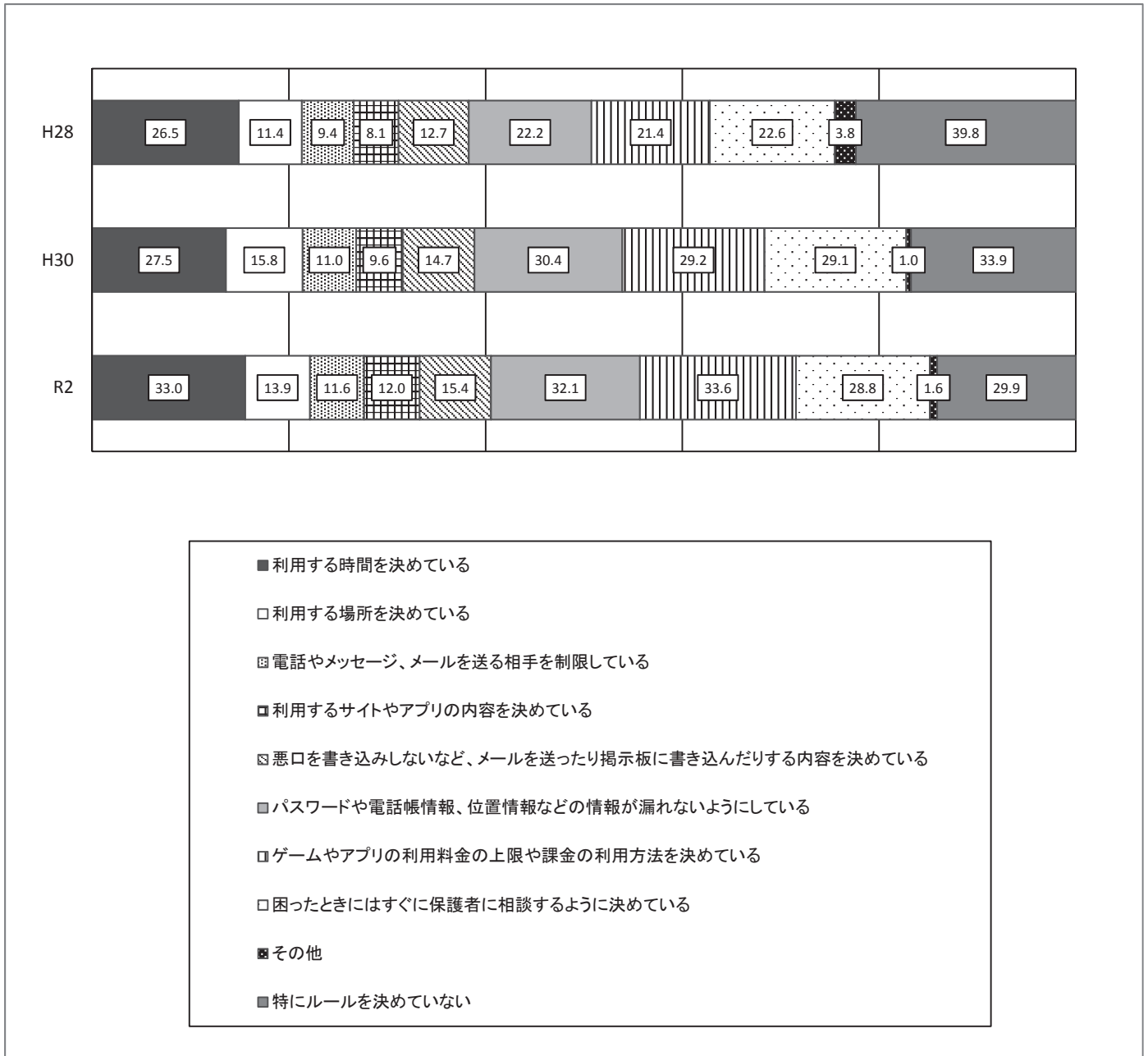
第1-7-21表 家庭での使い方ルール (N=1,262)



(経年変化)

過去の調査と比較すると、「特にルールを決めていない」が減少傾向にある一方、「利用する時間を決めている」「ゲームやアプリの利用料金の上限や課金の利用方法を決めている」が特に増加している。

第1-7-22表 家庭での使い方ルール（経年変化）

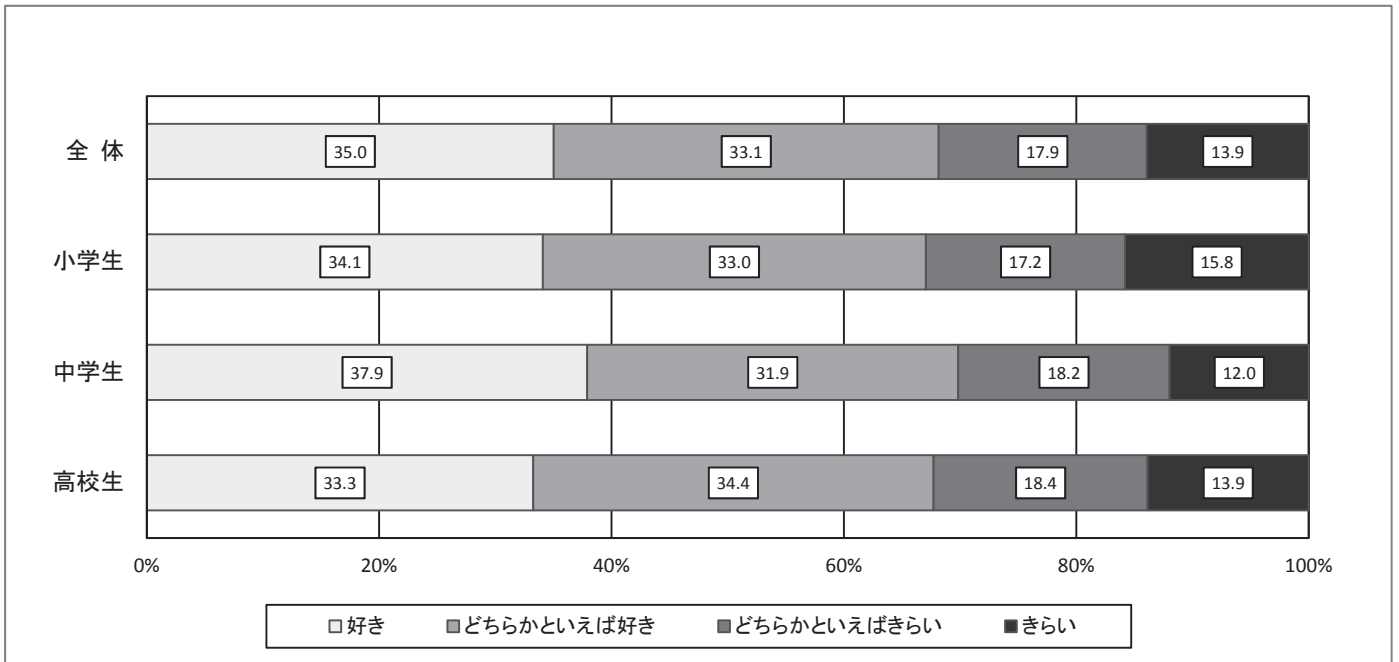


(6) 読書のこと

ア 読書への評価

読書が好きかどうか尋ねたところ、全体では68.1%が「好き」「どちらかといえば好き」と回答している。

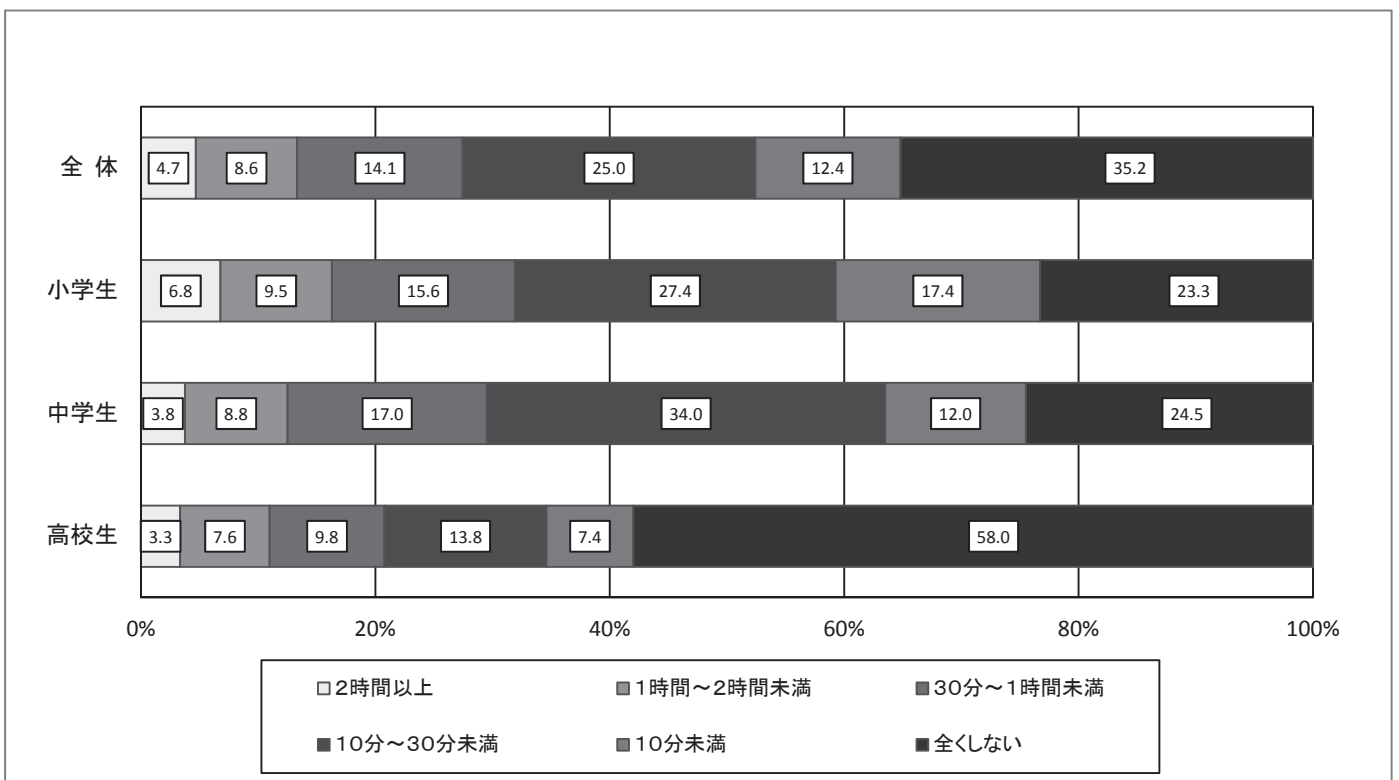
第1-7-23表 読書への評価 (N=1, 262)



イ 1日の読書時間

1日の読書時間を尋ねたところ、全体では、「1時間以上読書をしている」は13.3%で、35.2%は「全くしない」と回答している。また、高校生では、「全くしない」が58.0%となっている。

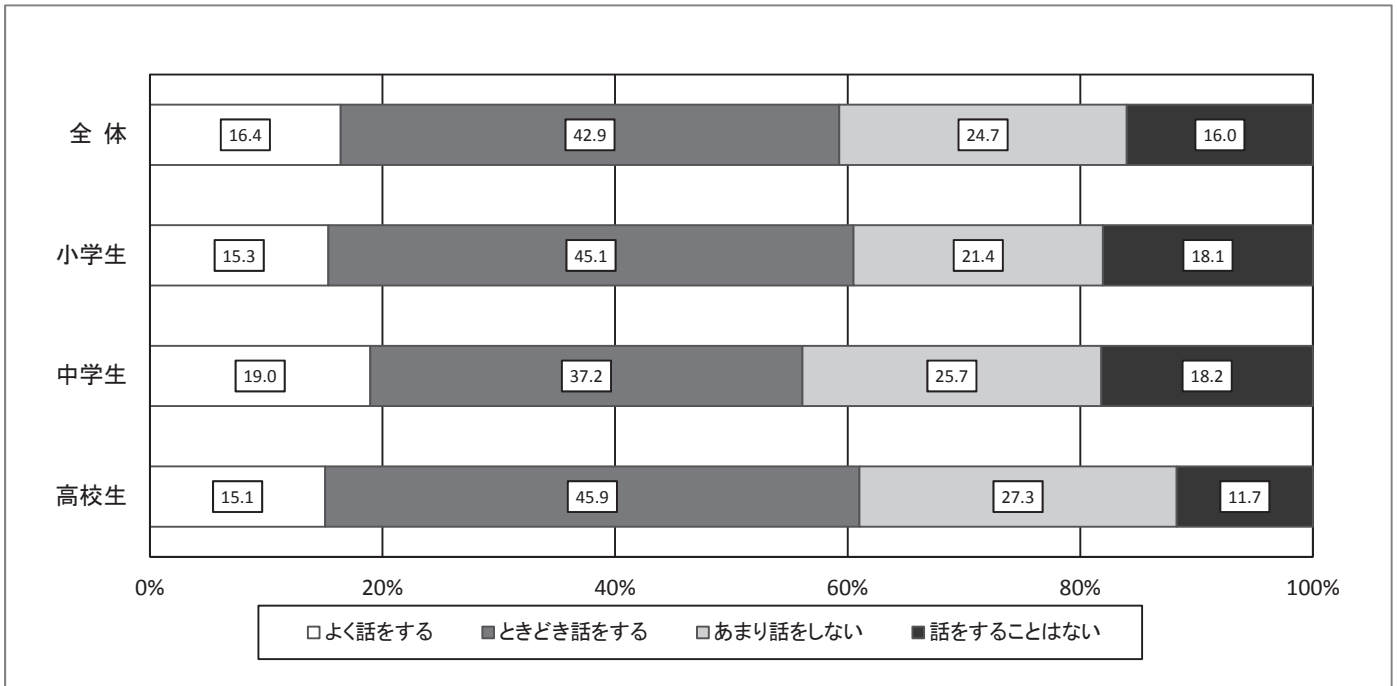
第1-7-24表 1日の読書時間 (N=1, 261)



(7) 世の中のこと

政治問題や社会的事件について家族や友だちなどと話をするか尋ねたところ、全体では、59.3%が「よく話をする」「ときどき話をする」と回答している。

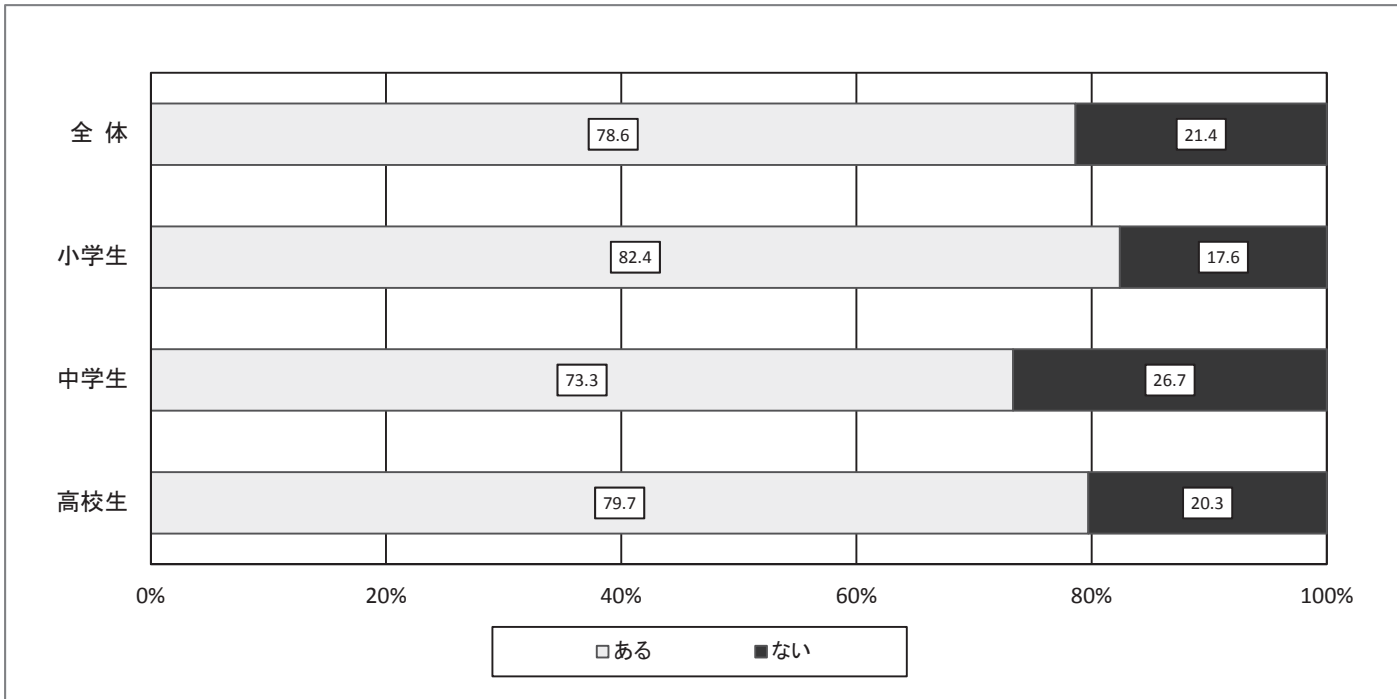
第1-7-25表 世の中の出来事についての会話 (N=1,262)



(8) 就労に関する意識

将来したい仕事やつきたい職業があるかどうか尋ねたところ、全体では78.6%が「ある」と回答している。

第1-7-26表 将来の就労意識 (N=1,263)

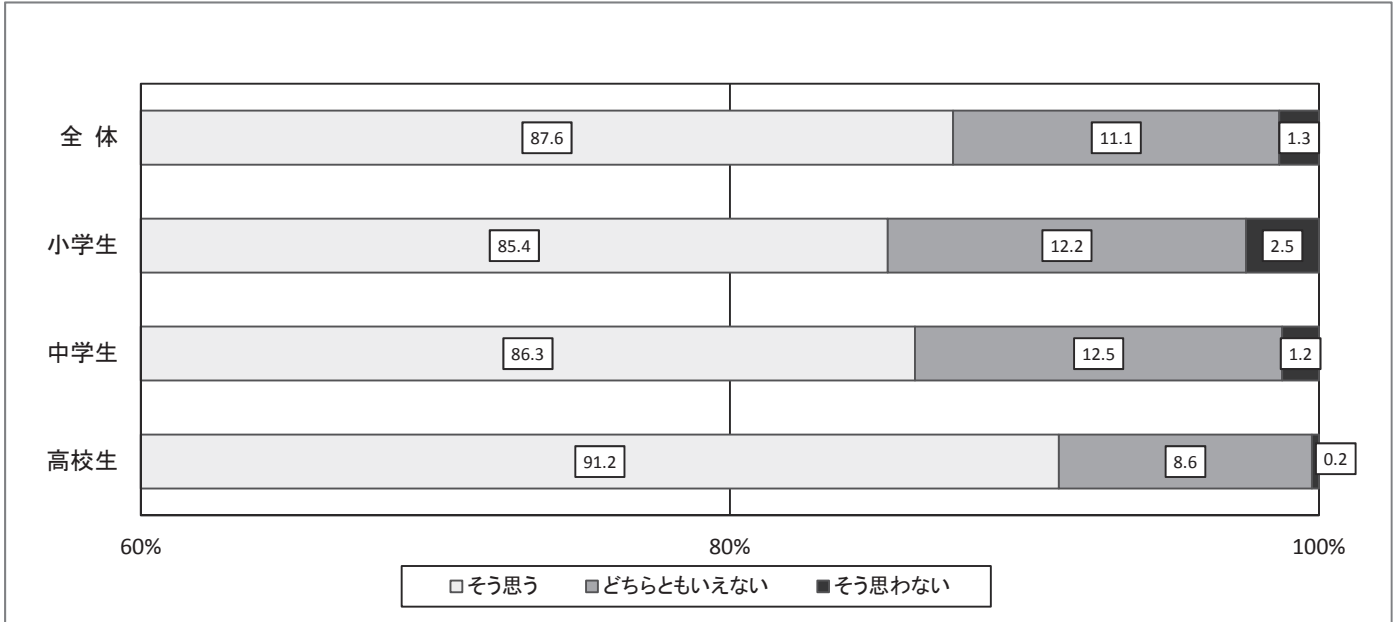


(9) 社会の価値観の変化に対する意識

男の人も女の人も同じように、家事や育児や介護をするべきかどうか尋ねたところ、全体では、87.6%が「そう思う」と回答している。

第1-7-27表 社会変化に対する意識（男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべきだと思う）

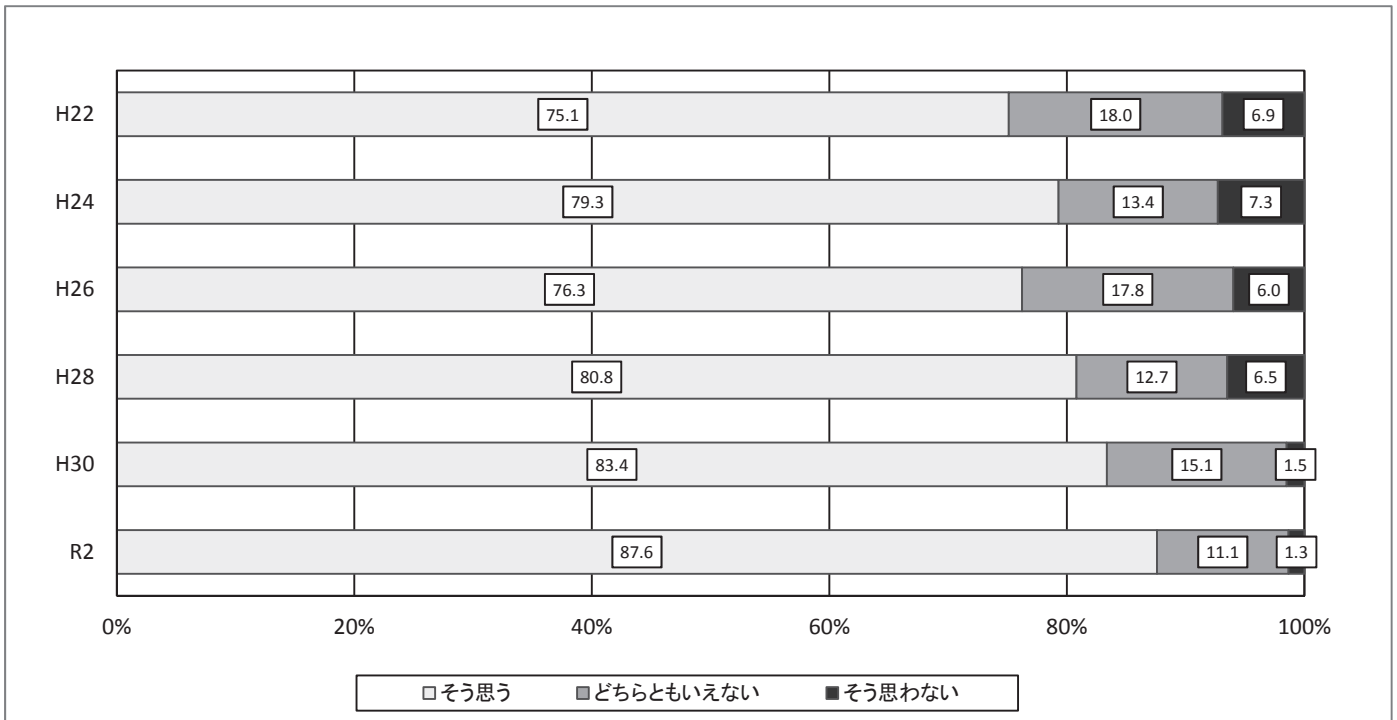
(N = 1, 264)



(経年変化)

過去の調査と比較すると、「そう思う」の割合は増加傾向にある。

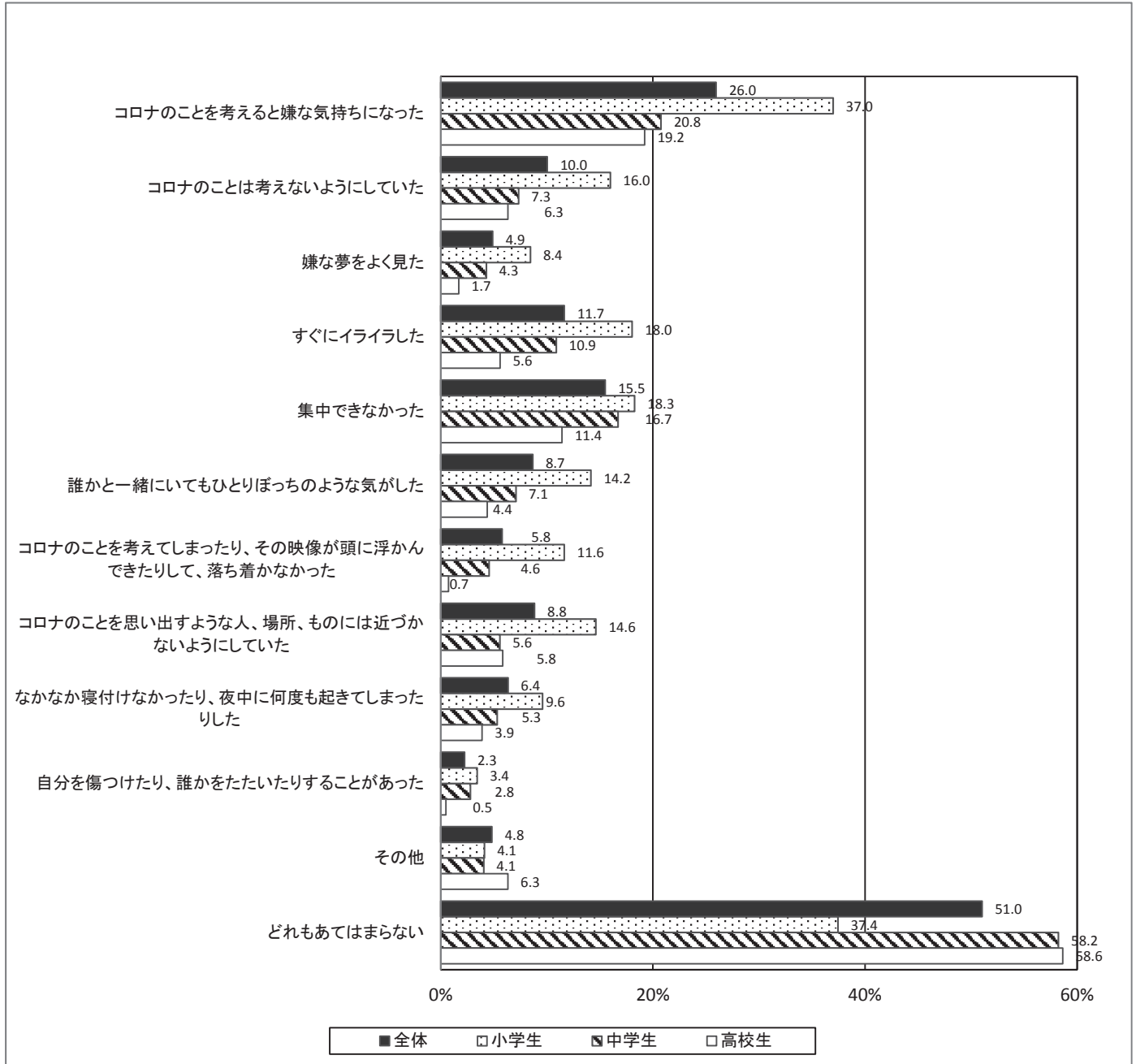
第1-7-28表 社会変化に対する意識（男性でも女性でも、家事や育児や介護をするべきだと思う）（経年変化）



(10) 新型コロナウイルス感染症のこと

コロナで学校が休校中に困ったことを尋ねたところ、「どれもあてはまらない」が51.0%と最も高い。以下、「コロナのことを考えると嫌な気持ちになった」が26.0%、「集中できなかった」が15.5%などとなっている。

第1-7-29表 新型コロナウイルス感染症のこと (M=1, 244)

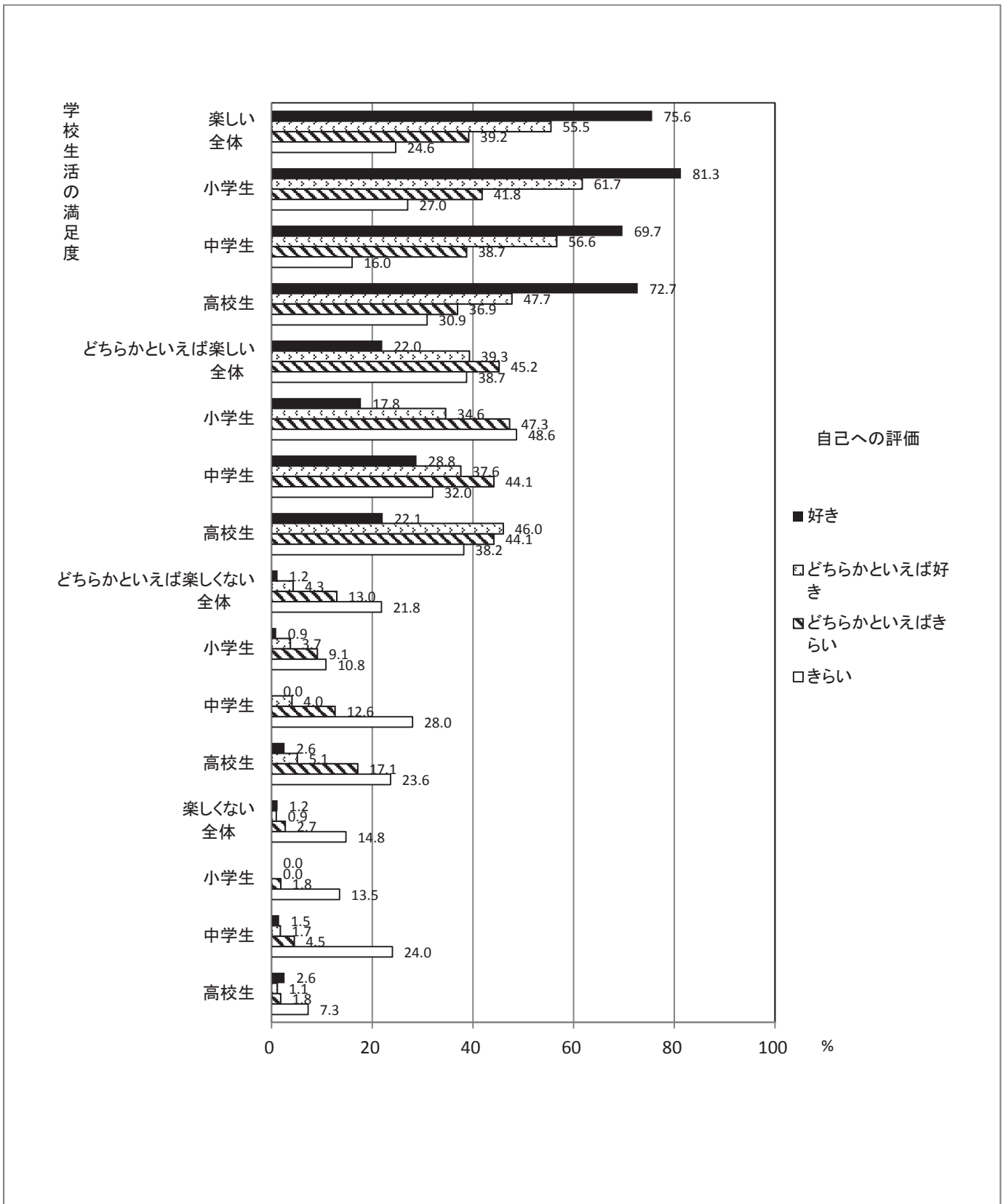


3 結果概要（クロス集計）

(1) 「学校生活の満足度」と「自己への評価」の関係

小学生、中学生、高校生とも、学校生活への満足度が高い子どもは自己肯定感が高い。

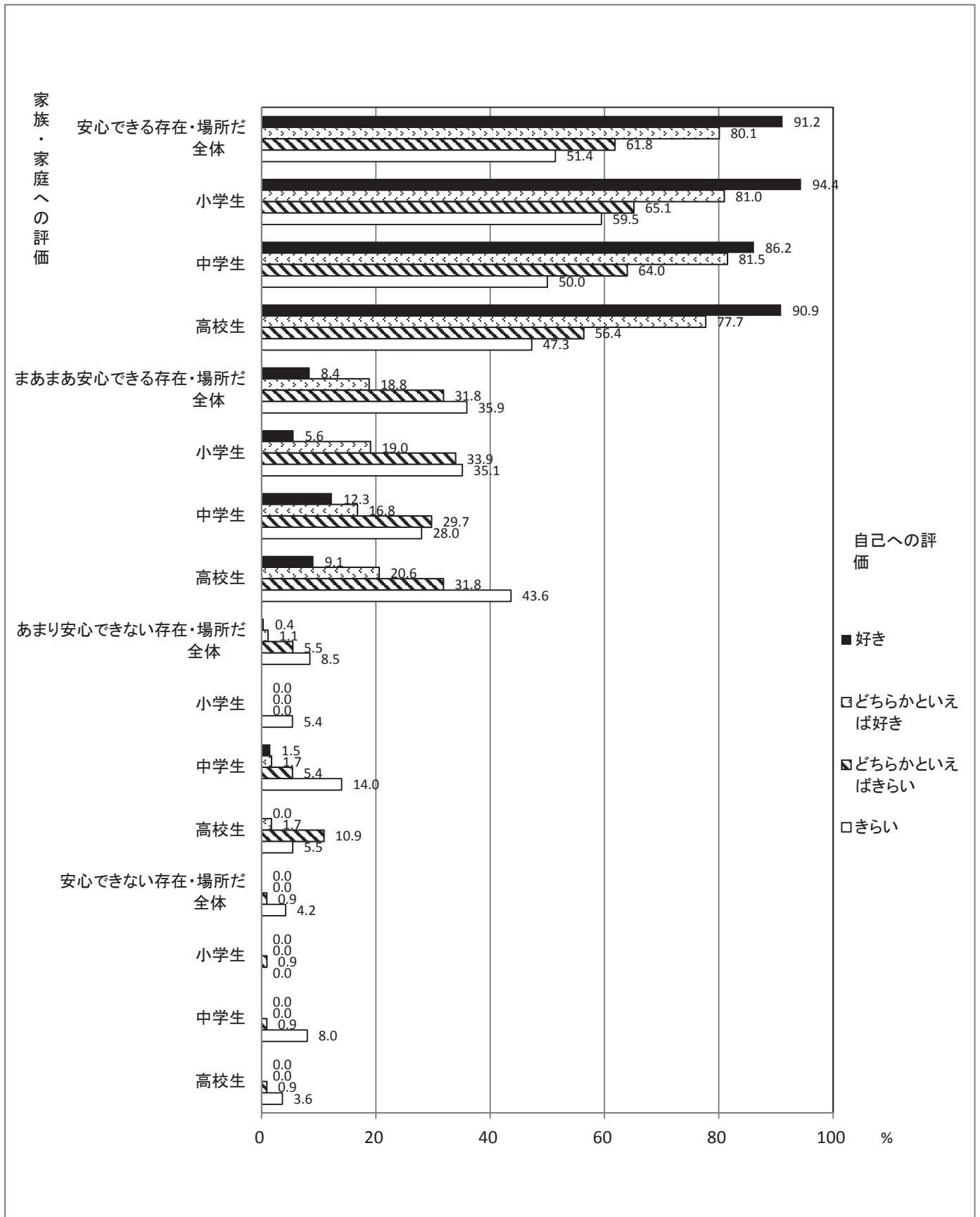
第1-7-30表 「学校生活の満足度」と「自己への評価」の関係



(2) 「家族・家庭への評価」と「自己への評価」の関係

家族・家庭への評価が高い子どもは、自己肯定感が高い。

第1-7-31表 「家族・家庭への評価」と「自己への評価」の関係



(3) 「インターネットにつながる機器の1日の使用時間」と「1日の読書時間」の関係

インターネットにつながる機器の使用時間が長いほど、1日の読書時間が短い。

第1-7-32表 「インターネットにつながる機器の1日の使用時間」と「1日の読書時間」の関係

